



社会環境活動レポート

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

2012



〒950-1492 新潟市南区清水4501-1
TEL. 025-371-4111 (代)



コメリのねがい

世の中の人々の幸せのために

この仕事がありますように

ここに集う人々の幸せのために

この仕事がありますように

この企業に縁ある人々の幸せのために

この仕事がありますように



人も企業も 世の中によって生かされているー

私たちのまわりには、鳥や魚、動物たちや花や木、それぞれが調和を保ちながら共存しております。それは、かけがえのない大地のめぐみのおかげです。

人も、この自然の中に生かされ、豊かな生活を育んできました。自然を大切にすることが、人類の豊かさを守ることもあると思います。

コメリは、この大地が美しい花や緑の木々にあふれ、いつまでも豊かで平和な世の中であってほしいと願っております。

この願いのもと、コメリは毎年、利益の1%相当額を原資に、日頃お世話になっている地域への還元活動を行っております。

人も企業も世の中によって生かされているー。

いかに世の中が変化していこうとも、幸せに生きたいという人々の願いがある限り、そこに力を注ぐ企業は永遠に生かされる、とコメリは考えます。

私たちの活動が、豊かな社会づくりに役立ち、皆様に喜んでいただけるよう、これからもコメリは、木を植え、花を咲かせてまいります。



株式会社コメリ 代表取締役会長

捧 賢一

地域社会の一員として

わが国の経済を取り巻く環境は、六重苦という言葉もあるとおり、大変厳しい状況が続いています。こうした中、コメリは最も遅れている住分野の流通を近代化し、世界に通用する本物のホームセンターを目指しています。

住分野の生産から販売までをコーディネートし、良い物を安く、良いサービスをローコストにお客様にご提供することが私どもの社会的使命です。本業を通じてお客様や出店地域の皆様のお役に立ち、社会になくはならない存在になること、これこそがわが社のCSR活動(企業の社会的責任)の基本です。

企業はお客様や地域の皆様に生かされています。当社では日頃お世話になっている地域の皆様へ、利益の1%を原資に20年以上にわたり植栽活動や街並みの緑化活動などを行ってまいりました。また災害時に地域のお役に立てるよう、2005年にNPO法人コメリ災害対策センターを設立し、災害の時に必要となる物資の提供を行っております。お困りの時こそ頼っていただける、そんなコメリでありたいと考えております。これからも世の中のお役に立てる企業でありたいと考えております。



株式会社コメリ 代表取締役社長

捧 雄一郎

商品の供給責任を果たす

コメリグループは、東日本大震災直後より対策本部を設置し各店および従業員の被害状況の把握に努めるとともに、小売業の最大の使命である「商品の供給責任を果たす」ため、被災店舗の営業再開に向けてグループ一丸となって取り組みました。



2011年3月13日、店頭の商品を並べて営業を続けるHC大船渡店(岩手県)。

営業を続ける

従業員を派遣し売場復旧

東日本大震災では、建物の破損、陳列什器の倒壊、商品の落下、ライフラインの寸断など360店舗が被害に遭いました。

比較的被害の少ない店舗は自力で速やかに売場を復旧させ、その日のうちに営業を再開。被害の大きかった店舗は、必要となる商品を店頭に出して販売したり、店頭でお客さまの必要な商品をうかがって従業員が店内に取りに行くなどの対応で販売を続けました。

また2011年3月13日から26日までの13日間にわたり、新潟、北陸、関西、中四国地区本部、そして本社の従業員を東北地方の店舗に派遣し、のべ4,000人規模の応援体制を組んで売場の復旧にあたりました。

お客さまがお困りになっているときにこそ営業を続けることが大事であることを、過去の災害経験から一人ひとりの従業員が理解しています。こうした理念によって、東日本大震災においても迅速に行動することができました。



2011年3月13～26日まで、東北地方に従業員を派遣し売場の復旧作業にあたりました。(写真は3月13日出発の様子)

日付	対応
2011年3月11日	地震発生 災害対策本部を設置 NPO法人コメリ災害対策センターに埼玉県美里町より物資要請の第一報
3月12日	被害状況・従業員安否確認のため、従業員を派遣 売場復旧のため福島県に従業員を派遣
3月13日	のべ4,000人規模の応援体制で売場復旧にあたる(～26日)
3月14日	コメリグループ1,049店舗で義援金募金を開始(～4月30日) 電力供給不足の対応として、グループ全店で節電対策を実施
3月31日	津波被害の4店舗を閉店 営業見合わせ店舗 14店(原発避難区域内店舗含む)
4月16日	H&G階上店(宮城県)営業再開
4月24日	H&G鳴瀬店(宮城県)営業再開
4月29日	H&G大和店(宮城県)営業再開
5月16日	H&G鹿島店(福島県)営業再開
8月28日	H&G瀬峰店(宮城県)営業再開
10月22日	福島第一原発事故「緊急時避難準備区域指定解除」を受けて H&G原町店が営業再開
11月25日	津波被害のH&G四倉店 営業再開 営業見合わせ店舗 7店(うち原発避難区域内6店舗)に

営業を支えた物流

被災地にある店舗の営業を支えたのは、コメリの物流機能です。

コメリには日本全国8カ所に物流センターがあり、東日本大震災で花巻流通センター(岩手県花巻市)と郡山流通センター(福島県郡山市)が被災しました。店舗の営業を続けるには各店への商品供給が不可欠なため、花巻、郡山流通センター復旧までの間は新潟流通管理センターと高崎流通センターからの配送に切り替え対応しました。

また、各センターには商品をストックするDC機能を備えているため、各センターで保管していたガソリン携行缶やブルーシートなどを東北地方の店舗に集約し、急激に高まったお客さまの需要にできうる限りお応えしました。



各センターにストックしている商品を東北地方に向けて緊急出荷することで、店舗の営業を支えました。

必要な物資をお届けする

自治体との連携で被災地を支援 NPO法人コメリ災害対策センター

NPO法人コメリ災害対策センターには、地震発生直後の17時5分に埼玉県美里町より物資要請の第一報が入り、その後、災害時支援協定を結んでいる自治体はもちろん、日本赤十字社や陸上自衛隊、国の災害対策を主管する内閣府などさまざまな団体から物資の要請を受け、40自治体・団体よりのべ200件を超えました。今回の震災は非常に規模が大きく広範囲に及んだことから、これまでにないほど膨大な量の物資が必要となりました。たとえば長靴2万2千足、毛布3万枚、乾電池3万1千本、使い捨て食器50万個、肌着上下3万組などですが、商品を手配するコメリ商品部・CSM部や配送を担当する北星産業と連携をはかり供給しました。



全国8カ所にある流通センターには、災害時に必要となる物資を備蓄。コメリの物流ネットワークと連携し、被災地まで迅速にお届けしました。

■物資要請自治体・団体	40自治体・団体
■物資要請件数	のべ200件
■供給物資	10tトラック換算で60台分
岩手県	毛布 ……………1,000枚 間仕切り段ボール ……1,800枚 使い捨て食器 ……300,000個 幼児用紙おむつ ……173,000枚ほか
宮城県仙台市	カセットボンベ ……9,000本 カイロ ……………3,000個ほか
宮城県大崎市	毛布 ……………1,400枚ほか
新潟県	石油ストーブ ……200台 毛布 ……………3,280枚 トイレットペーパー ……94,000巻ほか
日本赤十字社	肌着上下 ……30,000組 靴下 ……………10,020足ほか
陸上自衛隊	防塵マスク ……10,000個 ゴム手袋 ……3,500双ほか
内閣府	長靴 ……………22,200足 トイレットペーパー ……20,064巻 (一部抜粋)

復興を支援する

復興イベントに参加

8月27、28日に、被災した地元事業主の事業再生のきっかけを目的に行われた「陸前高田市復興街づくりイベント～街おこし・夢おこし～」に参加し、HC大船渡店が岩手・宮城県産の新鮮な鉢花を販売しました。

イベントのために用意した400鉢は完売し、売上の全額147,400円を陸前高田市に寄付して復興のためにお役に立ていただきました。

「がんばろう東北」で復興の力に

東日本大震災からの復興を支援するために、3月より岩手、宮城、福島県の34店舗において「がんばろう東北」を実施しています。具体的には、資材・建材・工具など復興現場で必要となる商品の充実をはかり、営業時間も通常より1時間早い8時から営業し、現場に向かう前に資材を調達できるようにしました。

これからも刻々と変わる復興需要にあわせて商品を提供することにより、一日も早い復興のお役に立てるよう努めていきます。



陸前高田市の復興イベントで地元産の鉢花を販売し、全額を寄付しました。



コメリ緑資金



利益の1%還元「コメリ緑資金」を始めるきっかけとなった、本成寺(新潟県三条市)の庭園 三軌苑

地域社会へのご恩返し「コメリ緑資金」

コメリの創業の地は新潟県三条市です。株式上場を目指して本社を新潟市に移転する際、お世話になった地元へのご恩返しにと、三条市にある名刹・法華宗総本山本成寺において、1989年、地元産業界の方々と協力して荒廃していた庭園の復元を行いました。この事業は地元の皆さまに大変喜ばれ、今では毎年茶会が開かれるなど市民が集う場所になっています。

この事業をきっかけに、コメリは利益の1%を継続的に社会に還元していくことを決定し、1990年に「コメリ緑資金の会」を設立しました。以来「コメリ緑資金の会」では、日頃お世話になっている皆さまへの感謝の気持ちを込めて、出店地域における緑化活動を支援しています。

広がる1%還元事業

活動当初は緑化活動への助成が主なものでしたが、出店地域が年々広がり、また時代とともにコメリへ寄せられる期待も変化してまいりました。そんなことから、1996年に「財団法人緑育成財団」を設立し、園芸や農業分野における研究開発事業への助成をスタートしました。また1999年からは従業員が幼稚園や小中学校等にボランティアで花を植える「コメリ緑資金ボランティア」制度を導入。従業員と地域の方々との対話や交流が深まり、「コメリ緑資金の会」の活動もより地域に根付いたものとなっています。

さらに2004年に地元・三条市を襲った大水害と中越地震での経験をきっかけに、資材建材等を扱うホームセンターとして、災害時に必要な物資を迅速にお届けすることも大きな社会貢献だと痛感し、2005年に「NPO法人コメリ災害対策センター」を1%還元事業の一環として設立しました。

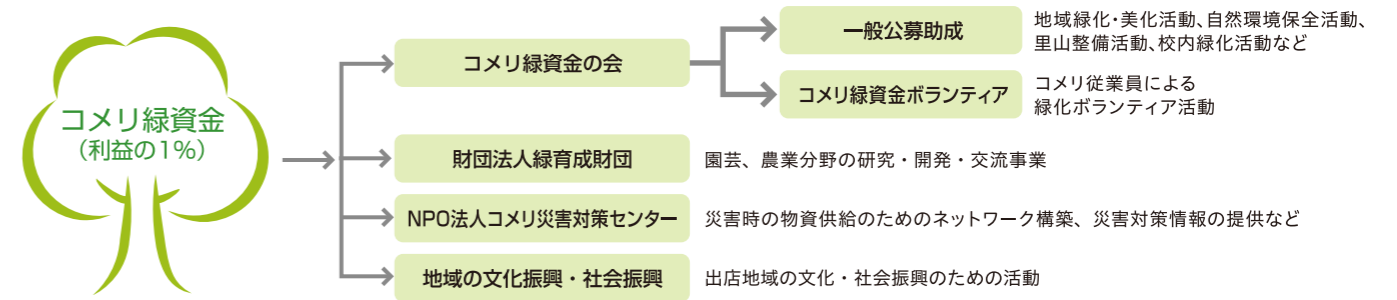
このように時代の流れとともに1%還元事業も変化し、当初の緑化活動のみならず園芸・農業分野における研究開発事業や環境保全を目的とした事業、文化・社会振興にまで支援の輪が広がっています。

企業は社会によって生かされているとコメリは考えています。私たちの住むふるさとがいつまでも緑豊かで平和であってほしいと願い、これからも1%還元事業を続けていきます。

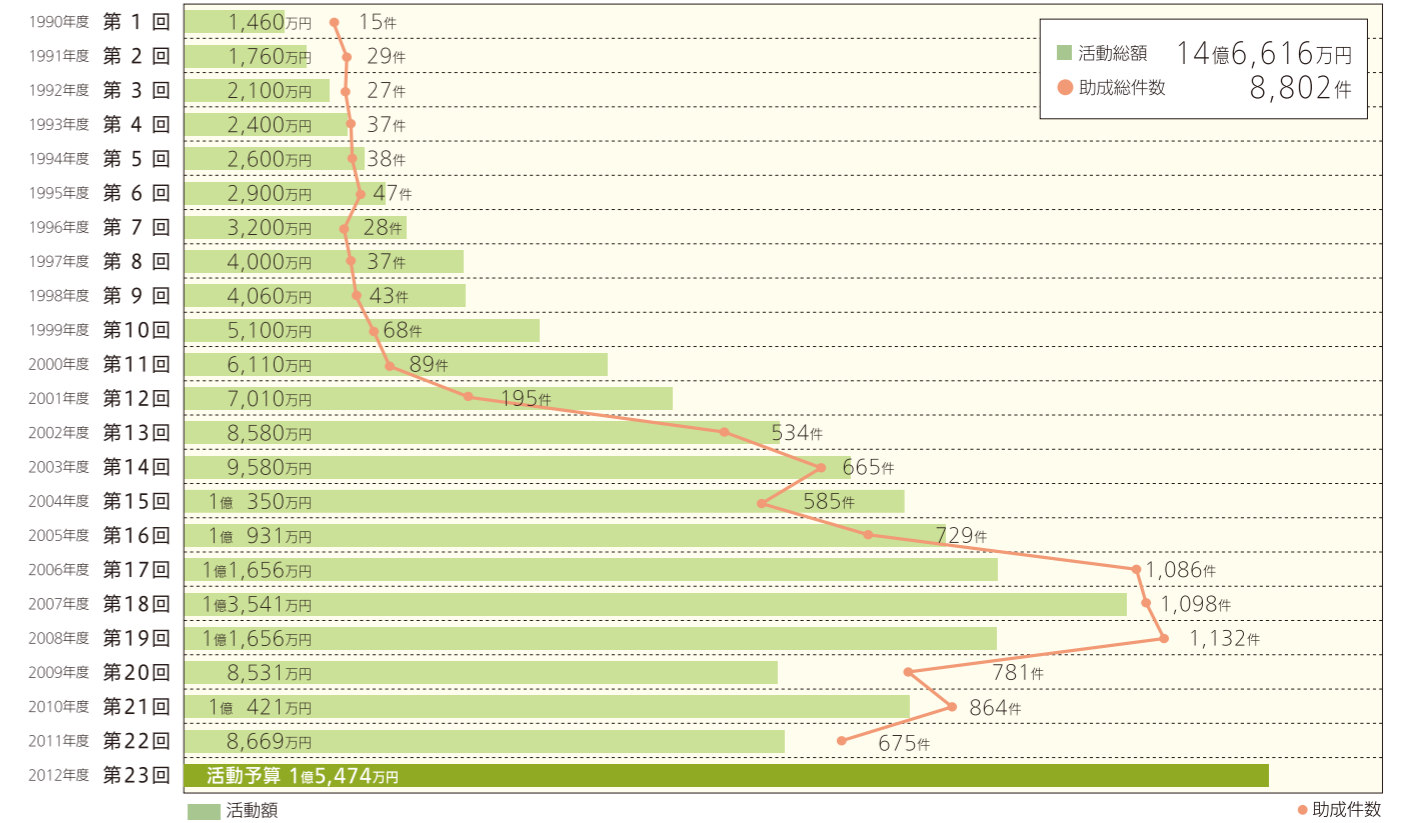


1999年より実施しているコメリ緑資金ボランティア。2011年度は585件の活動を行い、地域との交流を深めました。(写真 活動先:新潟市八千代保育園、実施店舗:PW黒崎店)

コメリ緑資金の流れ



コメリ緑資金 活動額の推移



第22回(2011年度) 一般助成先

都道府県	助成先	都道府県	助成先	都道府県	助成先	都道府県	助成先
北海道	ばん・ばん・ばんぶきん		NPO法人アクアキャンブ		四季を愛する会		格会
岩手県	教育振興会 帯島実践区	栃木県	鉾田市立当間小学校		NPO法人溪流再生フォーラム		徳山環境保全会
	NPO法人桃源郷づくり岩手県民運動		宇都宮城跡蓮池再生検討委員会		おおまつよいぐさ(月見草)を育てる会		米原市いぶき認定こども園
	いわて森林を守る会		佐野市立葛生南小学校		妙高大洞原農地再生推進協議会	大阪府	NPO法人ガイアライン
	NPO法人黄金つと		日光市立三依中学校		魚沼市立小出小学校PTA	兵庫県	草山郷づくり協議会
	街づくり集団 ゆいネット盛南	群馬県	財団法人尾瀬保護財団		三条市立須賀小学校	和歌山県	花街道推進実行委員会
宮城県	NPO法人スマイルシード		邑楽町立高島小学校 緑の少年団		城山入り口フラワークラブ	広島県	花ネットワーク・BINGO
	ねまわりのひまわり実行委員会		城山入り口フラワークラブ		見附市立見附特別支援学校PTA環境整備部	山口県	廃山に緑を増やす馬鹿会
	ふるさとせせらぎの会	埼玉県	長瀬の花と緑を守る会		美佐島緑の百年物語		つくしの会
	松島町本郷行政区愛宕地区行政区	千葉県	NPO法人たすけあいネイチャーネット		北中山まちづくり委員会		障害児(者)サポートクラブ翔
秋田県	畠町大通りプロジェクト委員会		花と緑の会	福井県	NPO法人 awarart		美しい三浦を創る会
	秋田市立桜小学校		八街東地区社会福祉協議会		春江大好きプロジェクト		道の駅みとうボランティア協議会
	柳町女性会		ふれあい千葉		NPO法人里豊夢わかさ	徳島県	西相谷山村連合婦人会
	上町すみれ会	東京都	NPO法人エコロジー・アーキスケア	山梨県	希望会	福岡県	香春町立勾金小学校PTA
	西大通り商店会 おかみ賛会		川場美しいマチ研究会		久保ふれあいクラブ		到津の森公園市民ボランティア 森の仲間たち
山形県	NPO法人おいたまサロン		八王子市立由木西小学校		下神内川菜の花の会	佐賀県	唐津みなと松原の会
	能中区		あきる野市立一の谷小学校		長野市立柳原小学校	大分県	ふるさと自然を育てる会
福島県	こうすっぺ西側イメージアップ作戦	神奈川県	土屋里地山再生グループ	長野県	NPO法人信州ふるさとづくり応援隊東信支部	宮崎県	日南市青年団協議会
	会津坂下町花いっぱい推進委員会	新潟県	緑のカーテンプロジェクト(大崎中学校PTA)		魚沼市立広神中学校		NPO法人 心の芽
	喜多方市立姥堂小学校		魚沼市立広神中学校		十二平を守る会		MFV会(宮崎森づくりボランティア会)
茨城県	動行川の花と緑とホテルと鞋を育て守る会		社会福祉法人どれみ福祉会 どれみ保育園	岐阜県	西濃環境NPOネットワーク		
	常陸太田市立山田小学校		花ももの郷柳尾	三重県	花しょうぶの会		
	コスモス花プロジェクト			滋賀県	高島市立朽木中学校		

コメリ緑資金の会（一般公募助成）

「コメリ緑資金の会」では、私たちの住むふるさとがいつまでも緑豊かで平和であってほしいと願い、公共性のある緑化活動を公募により助成しています。

2011年度も8月から10月まで公募を行い、被災地を緑化活動で元気付けたいと応募された団体や、失われつつある里山の原風景を復活させたいと活動されている団体など120件もの応募がありました。審議委員による公平・公正な審議によって90件の助成先を決定し、2012年2月4日立春にコメリ緑資金助成金贈呈式を行いました。

贈呈式にお越しいただけなかった団体には、最寄りのコメリ店舗従業員が目録をお届けしました。



2012年2月4日 コメリ緑資金助成金贈呈式



コメリ従業員による目録贈呈

コメリ緑資金の会（ボランティア）

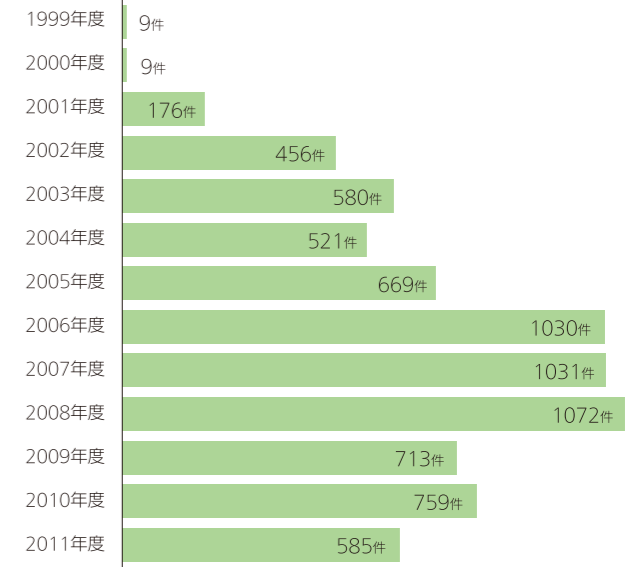
コメリ緑資金の会では、日頃お世話になっている出店地域の皆さまに感謝の気持ちを込めて、地域の幼稚園、保育所、小中学校などで子どもたちと社員と一緒に花を植える緑化ボランティア活動を1999年より実施しています。

2011年度は、春の園芸シーズンに震災があったことから昨年度よりも活動件数は減少しましたが、585件の活動を行いました。

ボランティア活動により地域の方々の対話や交流が深まり、また地域に根ざした営業の意識が一層向上するなど、社員教育の面でも良い機会になっています。

今後もボランティア活動を推進し、地域との結びつきを強めてまいります。

コメリ緑資金ボランティア 活動件数



第21回（2010年度）助成先活動報告

REPORT

西祖谷山村連合婦人会（徳島県）

「ハッピー・スマイル祖谷」をスローガンに県道沿い花壇に植栽し、年間を通じて花づくりを行いました。また学校支援の一環として学校花壇の整備を小学生と一緒にしたり、老人施設で花を植えるなど、花壇づくりを通じて地域の方々との絆を深め、明るく元気に笑顔が輝く地域にしようと取り組みました。



道の駅みとうふるさと発展協議会（山口県）

道路利用者や地域住民の休憩場所である「道の駅みとう」の荒地を憩いの場となるように花壇として整備。地域住民のボランティアを募り、4月から11月の毎週土曜日に2時間ほど花壇の整地や植栽、除草、水やりなどを実施しました。



ねまわりのひまわり実行委員会（宮城県）

2003年より1.5haの休耕田にひまわりの種を撒き、開花時に「ねまわりのひまわり」イベントを開催しています。今年度は震災と台風に見舞われましたが、20万本のひまわりが咲き復興のシンボルになっています。「ねまわりのひまわり」では、ひまわりをバックにあざ道コンサートやハワイアンフラを行い、来場者の心を和ませました。



【コメリ緑資金ボランティア】2011年度活動報告

REPORT

岩手県陸前高田市 気仙中学校緑化ボランティア

7月4日、東北地区本部8名が岩手県陸前高田市の気仙中学校で緑化ボランティアを行いました。

気仙中学校は津波で校舎が流されたため、廃校となった校舎で授業を行っています。震災以前から緑化活動が盛んな中学校で、コメリ緑資金ボランティアでも何度かお手伝いをさせていただきました。そんなご縁から、花と緑で生徒たちに笑顔を取り戻してほしいと実施しました。

当日は50名ほどの生徒も参加し、マリーゴールドや日々草、サルビアなどおよそ750本を6カ所の花壇とプランターに植栽し、学校を鮮やかに彩りました。「花を見ると明るい気持ちになる」「すごくきれい、気分が変わる」などの感想が聞かれ、生徒たちに笑顔が戻り、従業員も元気をもらった有意義な活動となりました。



福島市仮設住宅緑化ボランティア

福島県には、震災による原発事故の影響で仮設住宅で暮らす方が大勢いらっしゃいます。そのような方々に少しでも元気になってもらいたいと、11月18日、福島市の店舗従業員5名が、地域のボランティアの皆さまと一緒に、市内2カ所の仮設住宅に花を植えました。

当日は、それぞれ十数名の方と一緒に、60個ほどのプランターにパンジーとチューリップ球根を植えて仮設住宅を飾りました。避難生活のなかでは園芸を楽しむ機会もなく、「久しぶりに園芸ができて楽しい」「春に花が咲くのが楽しみ」といった明るい声やお礼の言葉をたくさんいただきました。



財団法人緑育成財団



財団法人緑育成財団は、かけがえのない故郷の保全と園芸・農業分野の発展のために活動をしています。

園芸・農業分野の発展のために

財団法人緑育成財団は、園芸・農業分野の発展のために、同分野における新技術開発や研究事業、技術者同士の交流を継続的に支援することを目的に、1996年に設立しました。

ことに農業においては、耕作放棄地の増加や農業従事者の高齢化・減少による担い手不足などさまざまな問題を抱えています。そんな状況とあいまって、日本の食料自給率(カロリーベース)は先進諸国の中でも極めて低く、年々減少の一途をたどり、2010年度は40%を切るに至りました。食料自給率の向上に、国も様々な施策を講じています。

このようなことから、2011年度は「食料自給率の向上に資する活動」をテーマに助成先を公募し、理事会において2件の助成を決定しました。

財団法人緑育成財団 役員・評議員 (2012年3月31日現在)

役員	
理事長 捧 賢一	(株)コメリ代表取締役会長
理事 長谷川 聡	(株)第四銀行常務取締役長岡ブロック営業本部長
理事 石澤 進	元新潟大学教授
理事 大場 秀章	東京大学名誉教授
理事 杉田 和夫	元(株)コメリ取締役
監事 岩井 和夫	岩井和夫公認会計士事務所所長
監事 五十嵐 昭一	(株)ローハチ代表取締役社長

第16回 (2011年度) 助成先

ヤングファーマー技術開発・研究・交換・交流・情報の事業 新潟県農業改良クラブ連盟(新潟県)

日ごろの営農活動や地域活動で生じた課題の解決、消費者との交流等に取り組むプロジェクト活動を展開。「食料自給率の向上」をプロジェクト活動の共通テーマとして生産技術の実証や技術開発に努め、体得した農業知識・技術を会員相互で共有・交換し、農業家の資質向上、育成に努めます。

高度病害抵抗性ナタネ品種の育成 新潟大学農学部植物育種学研究室(新潟県)

国内でのナタネ栽培拡大のために、耐病性のあるナタネ(高度病害抵抗性ナタネ)品種の育成を研究。ナタネ栽培は食料自給率の向上につながるのみならず、遊休農地の活用、バイオ燃料や有機肥料(油かす)にも利用できることから、循環型農業の確立に役立ちます。

評議員	
評議員 西原 譲一	日本放送協会新潟放送局局長
評議員 菅原 修孝	(株)日本政策投資銀行新潟支店支店長
評議員 五十嵐 由利子	新潟青陵大学短期大学部 特任教授
評議員 捧 雄一郎	(株)コメリ代表取締役社長
評議員 小杉 利元	(株)コメリ専務取締役
評議員 捧 欽二	(株)コメリ相談役

NPO法人コメリ災害対策センター



災害時一時避難用テント「エアロシェルター」。

2004年、新潟県では集中豪雨による7.13水害、新潟県中越地震という大規模災害を立て続けに経験し、災害の恐ろしさを知るとともに、早急に災害対策を充実させることの重要性を痛感しました。

そこで、永続的な災害対策に取り組むため、2005年9月に「NPO法人コメリ災害対策センター」を設立し、コメリ緑資金より助成を受けて活動を行っています。当法人は、災害発生時に迅速かつ円滑に物資の供給を行うため、全国の各自治体、コメリグループ各社、そしてお取引先企業との連携による物資供給ネットワークを構築して災害時に備えています。

その第一歩として全国の各自治体へ災害時における物資供給に関する協定締結を進めています。また、広報誌やWebサイトを通じた平常時における自治体との情報交換、防災啓発活動へも力を注ぎ、地域の一員としての役割を果たすべく活動しています。

防災啓発活動・防災訓練への参加

平常時には、各自治体との連携強化のため、防災訓練や防災啓発活動に参加しています。

2011年度 参加件数
全国で30件



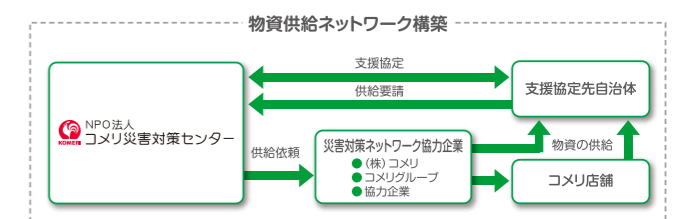
2011年10月30日
宇陀市総合防災訓練

災害時の物資供給ネットワークの構築

全国の各自治体との災害時における物資供給に関する協定締結を進め、災害時の物資供給のネットワーク構築を推進しています。

支援協定締結件数 366件
(2012年3月31日現在)

協力企業 214社
(コメリグループ含む)



災害対応関連情報の提供

協定を締結している全国の各自治体との平常時におけるコミュニケーションのため、広報誌「サポート」を毎年4月と10月の年2回発行しています。また、各自治体から情報を提供いただき作成した被災対策記録や、当法人の物資供給状況などをWebサイトで広く公開しています。



Webサイト

広報誌「サポート」

環境保全活動



節電につながる商品を積極的に提案しました。

省エネルギーの取り組み

節電

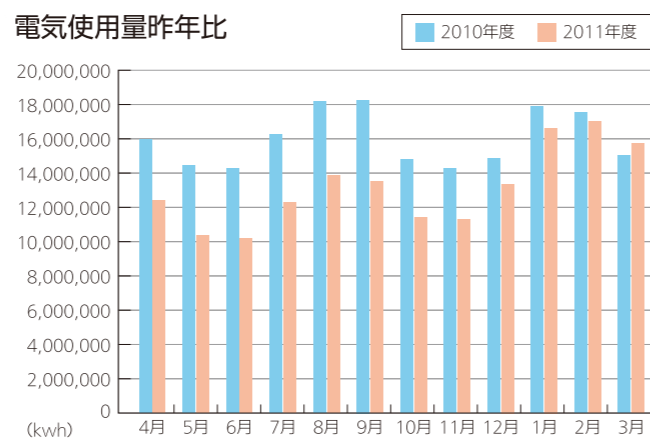
東日本大震災の影響による電力不足への対応として、震災直後の3月14日より、年間を通じて節電に取り組みました。

特に東北・東京電力管内では7月から9月の使用最大電力15%削減（ピークカット15%）が発動されましたが、コメリは管内店舗のみならず全店で店内照明の3割減灯や看板灯の消灯、空調機器の温度設定管理などをお客さまにご迷惑をかけない範囲内で実施しました。

本社内においても事務所内照明の減灯や空調機器の温度設定管理の徹底に加え、例年は6月～9月に実施しているクールビスを2011年は5月～10月に延長するなど、電気使用量削減に努めました。

これらの結果、2011年度の電気使用量は1億5,338万kwhで、2010年度の既存比で26.2%の削減を達成しています。

2012年度も引き続き取り組み、効率的なエネルギー使用を目指します。



店内の照明を互い違いに点灯し、全体の使用量を削減しました。

新店にLED照明を導入

店舗で使用されるエネルギーのうち、8割以上を電気が占めています。そのため、新店開店時や店舗改装時に省エネ型設備を導入し、環境負荷の少ない店づくりを進めています。

2011年度は3店舗22台の空調設備を、より省エネ効果の高い機器に入れ替えました。

また2011年11月以降に開店した新店23店舗（パワー1店舗、ホームセンター4店舗、ハード&グリーン18店舗）の照明にLED照明を導入しました。

LED照明は蛍光灯よりも長寿命で電力消費量も少ないことから、蛍光灯照明と比較して1店舗あたり約25%の電力削減となり、23店舗の総計で一日あたり約4,620kwhの使用電力の削減につながりました。

今後は既存店へのLED照明導入も視野に、環境に配慮した店づくりに取り組んでまいります。



LED照明を導入した新店。蛍光灯と比較して約25%の削減につながりました。

節電商品の販売

節電に対する国民的関心が高まるなか、コメリでは「節電」をテーマに売場を展開し、お客さまに積極的に提案しました。

例えばLED電球をはじめ、日差しを遮るグリーンカーテンの提案や、よしず、すだれなどの日除け商品、室内の空気を循環させて冷房効率を高めるサーキュレーターなど、また冬期間の節電には室内二重窓リフォームを提案するなど、節電につながる商品の販売に力を入れました。

また、売場には節電マークを取り付け、お客さまに分かりやすく販売しました。



節電商品の売場を展開し、お客さまに積極的に提案しました。

環境ステーションでリサイクル推進

コメリは、新潟流通管理センターと三重流通センター内に環境ステーションを設置し、店舗から排出される段ボールや梱包資材などのリサイクルを推進し、店舗における廃棄物の削減を進めています。

両センターが配送を担当している新潟、関西地区本部の248店舗の廃棄段ボール等は環境ステーションに集められ、圧縮の後、リサイクル処理されます。

今後は各センターへの設置を進め、リサイクルによる省資源化、ゴミの減量化に取り組んでいきます。

低炭素社会実現に向けた取り組み

車有車に電気自動車を導入

コメリでは限られたエネルギー資源を有効活用し、地球温暖化などの環境問題改善に貢献するため、環境負荷の少ない電気自動車普及を後押しする取り組みを進めています。

まず、新潟、埼玉、群馬県の3県連携で進めている国道17号線沿いの電気自動車充電インフラ整備に協力し、新潟県内の商業施設では初となる電気自動車用急速充電器1基を2011年3月にHC湯沢店に設置しました。

そして8月には本社の社有車に電気自動車2台を導入しました。コメリには現在、全店で約1,000台の社有車を有しており、今回の導入で実際の使い勝手やコスト対効果を検証し、さらなる設置台数の拡大も検討してまいります。

また、10月には本社敷地内に急速充電器1基と普通充電器1基を設置し、一般のお客様の充電器ご利用サービスも開始しました。



本社に導入した電気自動車2台と充電スタンド。充電器は、一般のお客さまにもご利用いただいています。

電気自動車カーシェアリングサービスの実施

コメリの本社事業所(新潟市南区)に訪されるお取引先さまは年間でのべ13,000社にもなりますが、本社までの公共交通機関がないことから、その多くは上越新幹線の燕三条駅と本社の間をタクシーやレンタカーで往来されています。

そこでお取引先さまの利便性向上とガソリン車での往来で排出されるCO₂を削減するために、三井物産株式会社100%出資のカーシェアリング・ジャパン株式会社と業務提携し、電気自動車を用いたカーシェアリング「コメリカーシェアリングwith カレコ」を開始しました。

JR燕三条駅前のコメリ三条金物資材館をステーションに普通充電器1基と電気自動車3台を配置し、24時間365日貸出、返却が可能です。

これによりガソリン車での往来で発生するCO₂排出量(年間およそ45t)の約15%の削減を見込んでいます。



電気自動車によるカーシェアリングを実施し、コメリに本社されるお取引先さまの利便性向上と往来で発生するCO₂削減をはかっています。

スマートハウスのモデルルームを開設

地球環境を守るために、CO₂などの温室効果ガスを極力排出しない「低炭素社会」の実現に向けた取り組みとして、クリーンなエネルギーでエネルギー消費を抑制できる「スマートハウス」が注目を集めています。

コメリでは、これまでもリフォーム事業において窓枠や玄関、屋根・外壁の断熱工事や節水型トイレによる水道水の節約、太陽光発電の紹介など、省エネルギー住宅へのリフォーム提案を行ってきました。そして2012年3月には本社隣地に「コメリスマートハウス」のモデルルームをオープンし、「省エネ」「蓄エネ」「創エネ」の新しい住宅のあり方を提案しています。

「コメリスマートハウス」は、太陽光パネルと家庭用燃料電池「エネファーム」によるダブル発電、深夜電力を蓄えて電気代を節約する蓄電池の設置、LED照明やアルミ樹脂との複層ガラスを採用し、住宅隣には電気自動車の急速充電器を設置してCO₂排出量削減の提案も行っています。

「住」の分野を担うホームセンターとして、低炭素社会に向けた新しい住宅のあり方を今後も提案してまいります。



スマートハウスのイメージ



「省エネ」「蓄エネ」「創エネ」をテーマにしたコメリスマートハウス。一般公開し、低炭素社会実現に向けた住宅のあり方を提案しています。

2011年度 トピックス

TOPICS

「環境格付」取得

コメリは、ホームセンター業界では初となる株式会社日本政策投資銀行(以下「DBJ」)による「環境格付」を取得しました。

DBJは、平成16年より独自のスクリーニングシステム(格付システム)による「環境格付」融資を実施し、環境配慮型経営を推進しています。コメリはこの融資制度に申請し、「環境への配慮に対する取り組みが十分」と評価されました。

具体的には、日本全国に1,000を超える店舗を有しながら事業の効率化をはかる一方、社会貢献活動を推進し、

- ①配車支援システムの導入により、配送車両台数を削減する等、物流の合理化・効率化による物流部門CO₂排出量を低減させている点
- ②利益の1%還元事業「コメリ緑資金」を1990年より継続して実施し、2011年度時点で活動総額が13億8,000万円にまで拡大している点

が高く評価されました。
また、省エネ委員会による環境に配慮した店舗づくりにも取り組んでおり、CO₂排出原単位を5年以内に5%以上削減することを目指しています。



社会文化活動



地域社会の発展を文化活動、スポーツ振興活動、募金活動からも支援しています。
(写真は雪梁舎美術館)

文化活動

雪梁舎美術館

雪梁舎美術館は、若手芸術家の発掘と育成、文化芸術の振興と発展、貴重な文化芸術作品の収集を目的に、1993年に設立されました。

毎年、精鋭作家の発掘を目的とした公募展「雪梁舎フィレンツェ展」を開催し、大賞受賞者にはルネサンス文化発祥の地イタリア・フィレンツェでの100日間の創作活動を支援しています。

また、フィレンツェ賞展上位入賞者を中心に「雪梁舎風の会」を設立。作品発表の場や作家同士が交流し切磋琢磨する機会を提供し、若手作家の育成に力を入れています。

2011年の「第13回フィレンツェ賞展」には、全国40都道府県から203点の応募があり、フィレンツェ大賞1点、優秀賞2点、ピアンキ賞1点と震災復興特別賞1点をはじめ39点の入賞・入選作品を決定しました。8月7日から9月11日まで雪梁舎美術館にて展覧会を開催し、大勢のお客さまが入選作品を鑑賞されました。

また2011年11月10日から15日まで、東京都のシアター1010にて巡回展を開催。期間中、600名ものお客さまにご来場いただきました。

コメリは、第1回のフィレンツェ賞展より協賛し、雪梁舎の活動を支援することで文化芸術の発展に貢献しています。



コメリ本社で行われた雪梁舎フィレンツェ賞展の審査の様子。



第13回雪梁舎フィレンツェ賞展東京巡回展をシアター1010で行いました。

スポーツ振興活動

新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ(BC) アルビレックス新潟、アルビレックス新潟レディース ユニフォームスポンサー

コメリは新潟県に生まれ育った企業として、2006年よりベースボール・チャレンジ・リーグ(プロ野球独立リーグ)で活躍する新潟アルビレックスBCの、また2011年からはサッカーJ1リーグのアルビレックス新潟のユニフォームスポンサーとしてチームの活動を支援しています。

そして2012年シーズンからは、新たに女子サッカーなでしこリーグのアルビレックス新潟レディースのユニフォームスポンサー(背中)となりました。

コメリは新潟をベースに活動するチームの活躍を応援し、これからもスポーツを通じた地域の振興・活性化に貢献しています。

コメリサクスデーを開催

チームの試合をサポートとともに盛り上げて応援し日本を元気にするために、サッカーにおいては7月2日の対モンテディオ山形戦で、また野球においては9月3日の対信濃グランセローズ戦で、それぞれ「コメリサクスデー」を開催しました。

サクスデーではマスコットキャラクターとの記念撮影会やお楽しみ抽選会などのイベントも行い、来場されたお客さまに楽しんでいただきました。



7月2日
コメリサクスデー
アルビレックス新潟対モンテディオ山形戦。試合前に会長、社長、コメリ従業員がピッチに立ち、サポーターと一緒に勝利を上げてチームの勝利を後押ししました。



9月3日
コメリサクスデー
新潟アルビレックスBC対信濃グランセローズ戦。応援者の声援がチームに届き、9回裏の攻撃で3点のビハインドを一気に挽回。選手たちの諦めない姿勢は来場者に元気を与えました。



2012年からアルビレックス新潟レディースのユニフォームスポンサーとして、背中からチームの活躍を応援します。

(C)ALBIREX NIIGATA

募金活動

ユニセフ募金

コメリは、世界の子どもの命と健やかな成長を守るユニセフ(国連児童基金)の活動に賛同し、コメリ全店に募金箱を設置し、ご来店のお客さまにユニセフ募金をお願いしています。

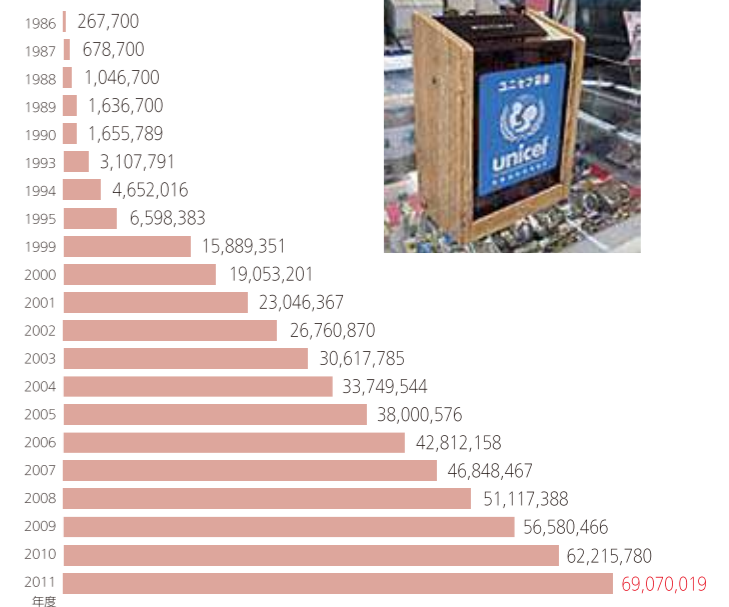
2011年度は総額685万4,239円の募金が寄せられ、全額を財団法人日本ユニセフ協会にお届けしました。また、これまでにお寄せいただいた募金の総額は、69,070,019円になりました。

東日本大震災 義援金募金

東日本大震災ならびに長野県北部地震による被災者支援として、2011年3月14日から4月30日のおよそ1カ月半にわたり、コメリグループ1,049店舗で義援金の募金活動を行いました。

お寄せいただいた募金の総額は13,228,043円にのぼり、全額を日本赤十字社を通じて被災地の復興支援にお役立ていただきました。

ユニセフ募金額の累計(円)



※各棒グラフおよび数値は、これまでの募金額を合計した値(累計)にしています。

